

心理コーディネーターになるために Vol.2

山下桂永子



☆2 度目のオファー

8年ほど前、大学院の修士を終えて5年ほど経っていたころ。私は日替わりで教育(小中学校や幼稚園、フリースクール)、福祉(保健所)、医療(心理発達外来のあるクリニック)、産業(EAP)などの職場で心理職として働いていた。一日に異なる職場を渡り歩くような生活で、毎日の移動距離は半端なく、1週間で東京大阪間ぐらいの距離は軽く運転していたんじゃないかと思う。ちなみにその頃から現役の愛車(軽自動車)は昨年走行距離が20万キロを越えた。

というそんな頃の年明け。臨床心理士になる前から教育相談や適応指導教室で働いている某市教育委員会の教育センターでセンター長から呼び出された。来年度の勤務のことかなあとぼんやり思いながら応接室に入ると、センター長から「山下さん、来年度週4で働いてくれないかしら。」と言われた。

☆1 度目のオファー

何言ってんだ?と思った。その前年も同じ事を言われて断っているからである。アルバイト情報誌を見るたび転職を妄想してしまうぐらい給料が安すぎるからである。いくら週4で保険料とか半分払ってくれて、使えない有給があるとは言え、昇給も賞与もない。時給換算して大目に見積もってもスクールカウンセラーの3分の1以下だし、その他の心理職、対人援助職の給料からみてもあまりにもお安い。おまけにここの教育相談は2年前に非行や虐待など生徒指導事案対応が中心の部署と合併移転しており、それまでの教育相談で担ってきた業務以上に様々な対応をしなければならず、世の中の「連携、協働」ブームもあって、業務内容も多岐に渡るようになってきていた。

昨年に「求められる仕事も増えてきているのに、ここの相談員の給料は専門職を雇うには失礼なぐらい安すぎます。心理士の資格や生活を維持するにはここの勤務は週1~2で限界です。スクールカウンセラー1日でここの数日分を稼いでいるからなんとかここにも来れているんです。」などとむちゃくちゃ文句を言ってお断りしたのを忘れているのだろうか?

☆知ってるようで知らない心理職の給料相場

「山下さんしかないと思うのよ」とセンター長が言った。そりゃ給料が安すぎて心理士が続かないからでしょうよ。「給料は周辺の他市と同じぐらいにするから」他市？そういえば他市の心理士ってどれぐらいの給料なの？ここ以外の仕事の給料を見る限り、今の給料が安いのは間違いないけれど、他市の給料がいくらかとかあまり考えたことなかったなあ。

「予算が通りそうなのはこれぐらい」と上司が出してきた一枚の用紙を見て驚いた。「心理指導員」という名前が入ったその紙には、昨年提示された、非常勤職員の1.5倍ぐらいの手取りがありそうな金額が記入されている。

「これなら他市に比べても低いということはないと思う。私は山下さんでとしか考えていないから」と上司は言ってくれた。それはとてもうれしい言葉だったけれど、散々給料の安さに文句を言っていた割には、素直には喜べなかった。スクールカウンセラーの時給に比べればまだまだかなわない金額であったこともあるが、同じ職場には教育相談で、心理士ではないものの、長きに渡る活躍をしている相談員の先輩方がいる。その方々を差し置いて私だけ給料が上がるということは許されないことのように感じたからでもある。

あとでわかったことだが上司が出してきたその給料が書かれた紙は、同じ市の福祉関係の他課で働く心理職の条件通知書のようなものだった。



☆今思う当時の上司の思惑

先にも記したように、当時の職場は数年前に教育委員会の様々な部署が合併移転したことにより、教育センターとして開設されたばかり。生徒指導や教育相談、特別支援教育、教職員研修の他、様々な部門が同じ事務所内で総勢30人ほどの職員によって運営されていて、指導主事という教育委員会で行政の仕事を担当する教員とともに、私も教育相談の部門で働いていた。

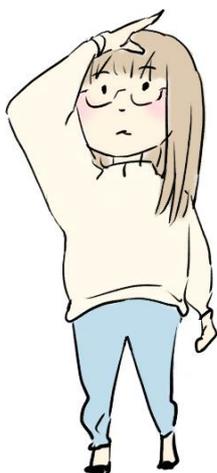


この時期は、教育相談の相談件数が増えてきていた時期でもあったのだが、教育相談担当の指導主事がおらず、教育相談における全体ケースの把握、会議の運営、相談者への連絡、学校との連携の業務は、センター長や教育相談担当というわけではない指導主事が手分けをして担っていた。とは言え、センター長も他の指導主事も数年経てば異動があり、担当が変わる立場であるので、教育相談に長く携わっている相談員にいろいろと聞かれることも多く、徐々に私が手伝えること

も多くなっていた。

相談員の業務として求められている仕事ではないのになぜ私が手伝っていたのかと言えば、たまたま私がそういう仕事が苦手ではなかったからである。社会人（大学卒業後に民間で事務職をしていた）としての経験や、スクールカウンセラーの経験、福祉、医療、産業の知識も多少あったこと、そして何より事務方の仕事（電話を取ることや書類整理など）が嫌いではなく、むしろ好きだったからである。

二度目のオファーでセンター長は、ただこれまでと同じ教育相談員としての業務で週4働いてほしいと言っているわけではなかった。増加している教育相談の業務の取りまとめをする人材が必要と思ったが、指導主事は増やせないし、私には去年断られている。そこで教育相談員としての予算ではなく、教育相談を取りまとめる役職として何とか予算を引っ張って来れないかと1年をかけていろいろと算段してくれたのだと思う。



☆心理コーディネーターになるために

スクールカウンセラーに比べればまだまだ給料が安い問題と、自分だけ給料上がるかもしれない問題以外で、オファーを受けるか受けないかでいえば、やってみたい気持ちはあった。昔から目の前にぶら下げられた人参は食べてみてからおいしいか腐っているのか判断するタイプである（たいていはおいしくいただく）。恥や失敗は大嫌いだけれど、やれない理由をあげるより、すごくやりたいことならやってみてから工夫を探す方が面白いやないかと思うタイプである。

そんな経緯がきっかけで、現在週4日、「心理指導員」として働いている。スクールカウンセラーより給料が全然安い問題、自分だけ給料上がる問題、10か所近くある職場を減らす問題、その他様々な問題をクリアしていく必要があったのだが、そのことについては、8年経っても試行錯誤している。今後行ったり来たりしながらまた記していこうと思う。

